

# 絵描き井上ヤスミチの ムダなもの がすきでして... (10)

## 整理できない工作おじさんの引っ越し

2016年の秋からごみっと・SUNの表紙イラストを描かせていただいている井上ヤスミチです。エッセイのようなものを書いてみたいかとの誘いをいただき、絵筆じゃない文章の筆をとることになりました。ごみ問題のことはわからないので、一見ムダに思えることにも有用なものがあるよなあというぼんやりしたくくりで書いております。

唐突ですが、昨年暮れに引っ越しをしました。18年暮らした豊島区から、お隣の板橋区へ。単身の引っ越しならいざ知らず、小中高校生3人の子どもの荷物を含め一家5人の引っ越しはなかなか大変でして、今回は引っ越しでひしひしと考えた「整理できない自分」について書こうと思います。

去年の5月、当時住んでいた借家のオーナーが変わり、新オーナーから立ち退きを打診され、すったもんだの末に年内いっぱいでの転居を決断、仕事と並行して半年後の引っ越しの準備をする日々が始まりました。

僕はイラストレーター兼工作の講師という自営業で、北池袋にシェアアトリエを借りているのですが、そこはわずかに三畳だけの狭いスペースなので仕事の荷物の全てを置くわけではなく、一部は家にあります。一部と言っても一度に20人以上を相手にする工作ワークショップの人数分の道具、材料、過去の作例、イラスト仕事の資料、書籍、デジタル関連の機材、木工の電動工具やらかなりの物量が家にありました。

荷物をとにかく減らさねば。引っ越しまでには半年の期間があったので夏と秋のあいだに必要な荷物なのかの判断をし、たくさん捨てて、アトリエに大きな棚を設置して運べるものは運び出すという作業をコツコツ続けました。続けることでだんだん捨てるハードルが下がり、なかなか捨てられなかった僕が躊躇なく「これはいらぬ」と判断できるようになったのは良かった。この感覚を継続できると良いけどきつとすぐに戻ってしまうでしょう。

10月には引っ越し先の物件が決まり、12月に入ると整理できたものから徐々に荷物の梱包を始めました。去年の秋はおかげさまで仕事も忙しく、引っ越しをする12月の初頭には「18年暮らした町に感謝する作品展」の自主企画までやったものだから、次第に引っ越し準備が混沌としていきます。

そしてついに恐れていた「なんでもボックス」が誕生してしまいます。ああもう梱包が間に合わん、とりあえずこの部屋にある分類されていないものは全部このダンボール箱に入れてしまおう。箱にはマジックで「なんでも」と記入。過去の引越しても度々登場している最終手段的なこの手法。なんでもボックスが1個や2個で済めばいいのですが、増えるほど引っ越し先での開封・収納作業に支障が出ます。



何でもボックスと現状の押し入れ。整理の日は続く。

なんとか梱包を終えて12月27日に引っ越しが完了。翌日に前の借家をオーナーに引き渡し一件落着、ああ大変だった、終わった終わった！新しい家に荷物を運ぶまでが引っ越しだと思い込んでいて安堵したわけですが、実際は全然そうじゃないということがこの後に痛感します。

膨大な荷物を開封しどう収納していくかにも時間と気力体力が必要！しかもすでに引っ越し当日までの日々で消耗しきって頭が回らない。まずはすぐ使う炊事用品や最低限の食器。風呂や洗濯や着替えのものたち。wifi機器は？充電器は？テレビのリモコンが出てこな

いんだけど！関連するものはセットで梱包って言ったじゃん！などなど。

生活で使うものから開封されていくので、なかなか自分の仕事の荷物の開封と収納が進まず、年が明けて子どもたちの新学期が始まってようやくなんとか、僕の荷物も押し入れに収まって、仕事と家事の日常に戻れたなーというのが1月の半ばくらい。

押し入れの中には実はまだ幾つかのなんでもボックスがあり、寝室の一角には自然発生した未整理の荷物の小さな山もありますが、対峙すべき時が来るまでそっとしておくことにします。未整理の小さな山はこれまでも度々発生していて、僕は個人的にその山を「宇宙」と呼んでいます。たぶん、半年後くらいには一旦この宇宙は解消されていて、新たな小さな宇宙の赤ちゃんが家のどこかに発生していて、その繰り返しが始まるということなのだと思ふのです。

最低限の所有物でシンプルに暮らせればこんなムダな営みとは無縁なのでしょうけども、僕の創作活動自体がごちゃごちゃしているので、宇宙の発生と拡大～家族に怒られて片付けるという流れはこの先もずっと繰り返すんだらうな。

井上ヤスミチ <http://yasmichi.com>  
「ヤスミチ」で検索すると出てきます